



植物（農業・環境）利用の実用化研究の役割で 携わる事業体を増やします

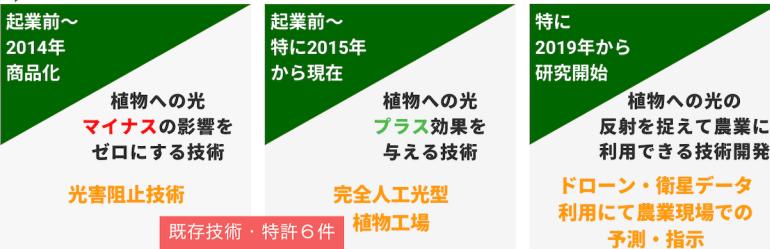


山口大学 農学部発ベンチャー企業（2011年起業）
拠点：山口大学内研究所（起業地 繼続）
水俣研究所（2018年より本社移転で開設）

▶▶ 植物は身近



▶▶ 自社研究



▶▶ 受託研究（現在の主たる事業） 植物を扱う研究部門を担います



自社研究成果事例

「衛星データから営農に役立つ予測情報へのプロセス」

「栽培光環境違いによる農作物の味の違い」

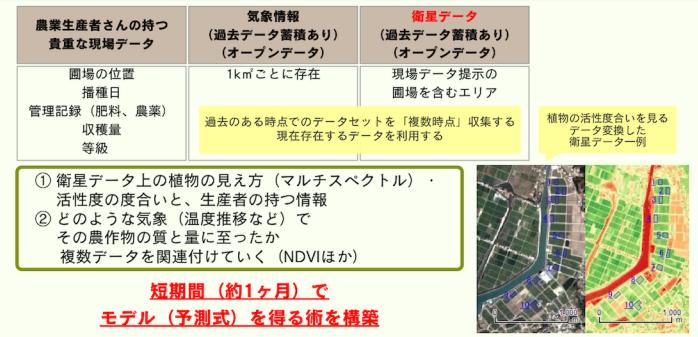
課題
要望

農業の生産者・指導者・管理者視点

- 農業現場の見回り時間が減らない
- 圃場の状況提示よりも何をしたらいいか情報がほしい

完成
技術

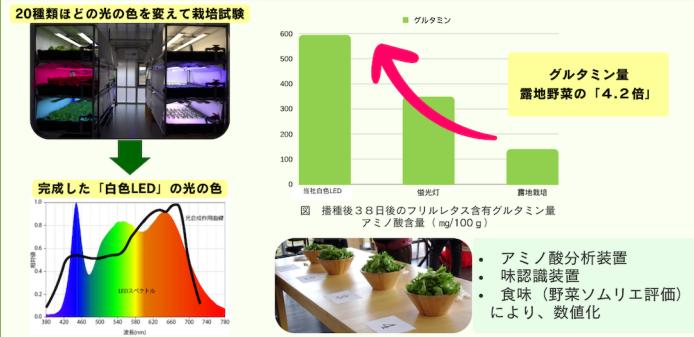
構築した新たな「術」（計算式構築）



植物工場事業者視点

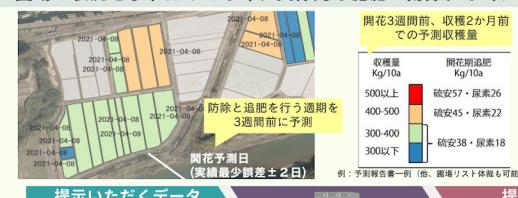
- もう一步差別化した野菜を売り込みたい
- 「おいしさ」を追求した視点が新キャッチフレーズ

同じ栽培期間で重量アップ・グルタミン量（アミノ酸）アップ



完成技術
の事業
展開例

圃場の状況を示すだけでなく、具体的な施肥・防除タイミングを示す



計算式を構築

提供データ
・高精度の防除・施肥時期予測
・早期の収穫量予測を基にした最適施肥量予測

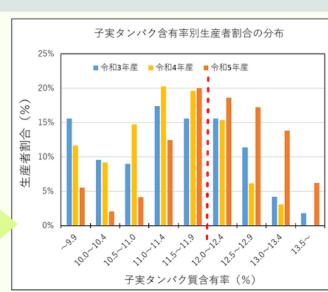
成果

小麦（品種：せときらら）

12%以上達成比率
県内全体で
25%（R4年作）→56%（R5年作）
に向上した

令和5年度から
事業化し、対価を頂き予測を実施

対象地域では「子実タンパク質含有量が12%以上」（グラフの横軸）が品質目標
→当社予測情報により達成生産者が増加
(実証 800圃場、事業化後 1400圃場)



当社商品を利用した事業者が新事業展開



ベジレックス



日経ビジネスなど掲載



2020年 13件
2021年 15件
2022年 20件
2023年 36件
(完了案件数)

支援

2019年 内閣府「2019年度 課題解決に向けた先進的な衛星リモートセンシングデータ利用モデル実証プロジェクト」事業名『衛星データとIoT農業機械による国産パン小麦高収益生産の実証』などの成果

利用されているシーン

生産者から対話を頂くのではなく、管理者（JAや県などの指導者）からの依頼で予測データを提供する

今後の展開

今後は、植物に関する課題解決に向けた「術」を用いて予測したいテーマへの課題解決に向ける

2015～2016年 山口県「やまぐち産業戦略研究開発等補助金」

事業名『おいしさを追求したローコストパッケージ型植物工場栽培用LED照明の開発』

植物への光環境提案、栽培環境提案などのコンサルタント。栽培比較試験依頼などにも波及している

植物への光環境条件は、光の強さ（PPFD条件・ストレス）・点灯時間（日長、シグナル）など、未知数